

新旧対照表

新	旧
<p style="text-align: center;">地域再生計画</p> <p>1. ～3. 略</p> <p>4. 地域再生計画の目標</p> <p>平成17年10月1日、那須郡南那須町と同郡烏山町が合併し、人口<u>31,000</u>人の小さな市、「那須烏山市」が誕生した。</p> <p>本市は栃木県の東部に位置し、首都圏150km圏内にあり、地勢は八溝山系に属し、平野部を那珂川が貫流している緑豊かな地域である。<u>国の重要無形民族文化財の指定を受けた450年の歴史がある</u>「山あげ祭り」や1200年の歴史がある和紙などがある一方で、冬の夜空に20万個の電球が飾るタウンイルミネーションがある新旧の文化を有している市である。</p> <p>産業としては、米、畜産等の農業、八溝材の産地である林業、県東地区の中心市として、周囲の市町村より集客していた商業、自動車関連の工業、さらには、豊かな緑と清流を活かした体験型観光と、<u>小さくとも</u>県東地区の中心都市の機能を有している市である。</p> <p><u>交通面</u>では北関東の中核都市宇都宮市から約35km、東西に主要地方道宇都宮烏山線が横断し南北に国道294号等が縦断しているなど、適度な利便性を備えている。</p> <p>しかし、国勢調査による人口推移は、平成7年の33,535人から平成17年には31,152人と、この10年間の減少率は7.1%（2,383人減）と県内の市では一番の減少である。また、急激な児童生徒の減少により、旧烏山町地区では小学校7校を3校に、中学校3校を1校に統廃合を進めている。</p> <p>近年の社会情勢の変化に伴い、<u>価格の低迷</u>、後継者不足等により米、酪農、木材、和紙等の産業が衰退し、さらには、工場の海外進出などが続き、市内の基幹工業団地の中には、撤退する企業もある。</p>	<p style="text-align: center;">地域再生計画</p> <p>1. ～3. 略</p> <p>4. 地域再生計画の目標</p> <p>平成17年10月1日、那須郡南那須町と同郡烏山町が合併し、<u>人口3万1千人</u>の小さな市、「那須烏山市」が誕生した。</p> <p>本市は栃木県の東部に位置し、首都圏150km圏内にあり、地勢は八溝山系に属し、平野部を那珂川が貫流している緑豊かな地域であり、<u>国の重要無形民族文化財の指定を受けた450年の歴史がある</u>「山あげ祭り」や1200年の歴史がある和紙などがある一方では、冬の夜空に20万個の電球が飾るタウンイルミネーションがある新旧の文化を有している市である。</p> <p>産業としては、米、畜産等の農業、八溝材の産地である林業、県東地区の中心市として、周囲の市町村より集客していた商業、自動車関連の工業、さらには、豊かな緑と清流を活かした体験型観光と小さくとも県東地区の中心都市の機能を有している市である。</p> <p><u>交通機関</u>としては北関東の中核都市宇都宮市から約35km、東西に主要地方道宇都宮烏山線が横断し南北に国道294号等が縦断しているなど、適度な利便性を備えている。</p> <p>しかし、国勢調査による人口推移は、平成7年の33,535人から平成17年には31,152人と、この10年間の減少率は<u>▽7.1%</u>（<u>▽2,383人</u>）と県内の市では一番の減少である。<u>このため</u>、急激な児童生徒の減少により、旧烏山町地区では小学校7校を3校に、中学校3校を1校に統廃合を進めている。</p> <p><u>また</u>、近年の社会情勢の変革に伴い価格の低迷、後継者不足等により米、酪農、木材、和紙等の産業が衰退し、さらには、工場の海外進出などが続き、市内の基幹工業団地の中には、撤退する企業もある。</p>

農業においては担い手の減少や従事者の高齢化が進展したことで生産体制が脆弱化しており、産地競争力の維持・強化が強く求められている。商店も大型商業施設の開業により、過去10年間で22%の廃業が続き(547箇所から431箇所に減)、より一層中心街が衰退し、地域の「にぎわい」を失いかけている。

さらに、合併した2町間の連絡道路の不備が、住民の融合融和の障害になっており、地域の一体性を熟成することが本市の緊急の課題となっている。

このことから、本市の「にぎわい」を復活させ、地域の一体感を熟成して、秩序ある地域開発を促進し、人口の定住化と都市住民との交流を深め、商業・工業・農林業・観光の調和のとれた「小さくともキラリと光る那須烏山市活性化計画」を推進するため、地理的特性や地域の状況・経済等の動向等を踏まえ、市全域を(にぎわいと文化の清流ゾーン)、(豊かな暮らしの丘ゾーン)、(活力あふれる交流の里ゾーン)、(自然とふれあう八溝の森ゾーン)の4つのゾーンに設定し、地域再生の目標とした。

略

(豊かな暮らしの丘ゾーン)は、主要地方道宇都宮烏山線やJR烏山線の優れた交通環境、公共公益機能が集積する南那須市街地を中心とした地域であり、市独自の企業誘致優遇制度の活用による企業誘致等の促進や市街地の道路整備による住環境改善により、定住化を促進し、地域の活性化を図る。

(活力あふれる交流の里ゾーン)は、那珂川右岸北側の丘陵を中心として、こぶしが丘温泉、八溝県民休養公園等の都市との交流施設や富士見台工業団地等の産業施設がある地域であり、都市との交流施設や工業団地等へのアクセス道路を改善することにより企業誘致や交流人口の増加を図る。

また、地域の基幹産業である林業・農業の活性化を図るため、育林作業の効率化や農産物の効率的運搬を促進する林道の整備をする。

さらに、市の主要品目である米麦、野菜、果樹等の生産性を向上させるために、拠点となる農業生産

商店も大型商業施設の開業により、過去10年間で22%の廃業が続き、(547箇所から431箇所に減)より一層中心街が衰退し、地域の「にぎわい」を失いかけている。

さらに、合併した2町間の連絡道路の不備により、住民の融合融和の障害になっており、このため、地域の一体性を熟成することが本市の緊急の課題となっている。

このことから、本市の「にぎわい」を復活させ、地域の一体感を熟成するには、秩序ある地域開発を促進し、人口の定住化と都市住民との交流を深め、商業・工業・農林業・観光と調和のとれた「小さくともキラリと光る那須烏山市活性化計画」を推進するため、地理的特性や地域の状況・経済等の動向等を踏まえ、市全域を(にぎわいと文化の清流ゾーン)、(豊かな暮らしの丘ゾーン)、(活力あふれる交流の里ゾーン)、(自然とふれあう八溝の森ゾーン)の4つのゾーンに設定し、地域再生の目標とした。

略

(豊かな暮らしの丘ゾーン)は、主要地方道宇都宮烏山線やJR烏山線の優れた交通環境、公共公益機能が集積する南那須市街地を中心とした地域であり、市独自の企業誘致優遇制度の活用による企業誘致等の促進や市街地の道路整備による住環境改善により定住化を促進し地域の活性化を図る。

(活力あふれる交流の里ゾーン)は、那珂川右岸北側の丘陵を中心として、こぶしが丘温泉、八溝県民休養公園等の都市との交流施設や富士見台工業団地等の産業施設がある地域であり、都市との交流施設や工業団地等へのアクセス道路を改善することにより企業誘致や交流人口の増加促進を図る。

また、地域の基幹産業である林業・農業の活性化を図るため、育林作業の効率化や農産物の効率的運搬を促進する林道の整備をする。

施設を整備し、効果的な利用を推進していく。

(自然とふれあう八溝の森ゾーン) は、那珂川左岸に広がる八溝山系の一部を形成する林業の中心的地帯であり、全国の棚田百選に選定された棚田が広がる。さらには、みかん栽培の北限といわれ、観光みかん畑のある国見地区や「やまびこの湯」がある那珂川県立自然公園があり、まちづくり研究会等の活動や交流施設へのアクセス道路の整備、さらには、森林の環境保全等の多面的機能を強化するための道路整備を推進し、山間部の特性を活かした地域開発を図る。

略

(目標1) 市中心地・施設拠点・産業拠点、各ゾーン間のアクセス改善、連絡時間の短縮

- ・施設拠点・各ゾーン間等の連絡時間を2分短縮
- ・国道294号と主要地方道宇都宮烏山線までの連絡時間を3分短縮

略

(目標4) 米麦の生産コストの低減

- ・麦の10aあたり労働時間を8.0時間(平成20年)から6.5時間(平成23年)に短縮

5. 目標を達成するために行う事業

5-1 全体の概要

略

野上愛宕台線等の幹線通学路を整備することにより、統廃合を推進する小中学校の児童・生徒の通学時の安全を確保する。

また、林道を整備することにより、森林のもっている多面的な機能を増進し、間伐等作業の効率化を図り、八溝材としての産地化を進め、本市の重要な地場産業である林業の活性化を目指す。

さらには、企業誘致優遇事業の実施や、山あげ祭りや若い力を活用した新しいまちづくりの試みを推進することにより、商店街等の活性化を図り、にぎわいの復活を目指す。

地域農業の活性化に向けては、既存の穀類乾燥調

(自然とふれあう八溝の森ゾーン) は、那珂川左岸に広がる八溝山系の一部を形成する林業の中心的地帯であり、全国の棚田百選に選定された棚田。さらには、みかんの栽培では北限といわれ、観光みかん畑のある国見地区や「やまびこの湯」がある那珂川県立自然公園があり、まちづくり研究会等の活動や交流施設へのアクセス道路の整備、さらには、森林の環境保全等の多面的機能を強化するための道路整備を推進し山間部の特性を活かした地域開発を図る。

略

(目標1) 市中心地間・施設拠点・産業拠点、各ゾーン間のアクセス改善、連絡時間の短縮

- ・施設拠点・各ゾーン間等の連絡時間を2分間短縮
- ・国道294号と主要地方道宇都宮烏山線までの連絡時間を3分間短縮

略

5. 目標を達成するために行う事業

5-1 全体の概要

略

野上愛宕台線等の幹線通学路を整備することにより、児童・生徒の通学時の安全を確保するとともに、小中学校の統廃合を推進する。

また、林道を整備することにより、森林のもっている多面的な機能を増進し、間伐等作業の効率化を図り、八溝材としての産地化を進め本市の重要な地場産業である林業の活性化を目指す。

さらには、企業誘致優遇事業の実施や山あげ祭りや若い力を活用した新しいまちづくりの試みを推進することにより、商店街等の活性化を図り、にぎわいの復活を目指す。

製施設等の再編整備及び機能増強を進めるとともに園芸作物の基幹施設を整備しながら、農産物の生産性や品質の向上を図り、競争力の高い産地の生産体制構築を目指す。

5-2 法第5章の特別の措置を適用して行う事業

A3001 道整備交付金を活用する事業

略

[施設の種類(事業区域)]

- ・市道 (那須烏山市)
- ・林道 (那須烏山市)

略

5-3 その他の事業

5-3-1 支援措置による取組み

B1005 強い農業づくり交付金(農林水産省)

平成19年9月に制定した那須烏山市総合計画・基本構想の実現並びに、平成16年4月1日に制定(平成21年4月1日一部改正)した那須烏山市地域水田農業ビジョンの達成に向け、農業生産施設(種子センター、野菜果樹選果場)の整備を推進する。

(平成21年度)

生産性と品質の向上が課題となっている種子用の米・麦について、省力化によるコスト削減及び調製処理方式の改善による品質向上を図るための施設整備

・事業名 : 強い農業づくり交付金(産地競争力の強化)

・事業主体 : 那須南農業協同組合

・事業期間 : 平成21年度

・事業費 : 353,262千円(うち国費158,725千円)

・事業内容 : 穀類乾燥調製施設(種子センター)の機能増強整備

貯留乾燥設備(200t×3基)、荷受・調製・計量出荷設備一式

5-2 法第4章の特別の措置を適用して行う事業

道整備交付金を活用する事業

略

[施設の種類(事業区域)]

- ・市道 (那須烏山市) 那須烏山市
- ・林道 (那須烏山市) 那須烏山市

略

5-3 その他の事業

・強い農業づくり交付金を活用した事業における成果目標

・穀類乾燥調製施設の利用率 10

1%

・麦の10aあたりの労働時間18.

8%削減

(平成22年度以降)

多様化する梨とトマトの需要に対応可能な供給体制への移行が課題であるため、集荷・選別方式を改善し、新たな販売戦略の構築に必要な野菜果樹選果場を整備

・事業名 : 強い農業づくり交付金 (産地競争力の強化)

・事業主体 : 那須南農業協同組合

・事業期間 : 平成22年度以降

・事業費 : 759,685千円 (うち国庫340,255千円)

・事業内容 : なし・トマト選果施設の再編整備
光センサー付き形状選別機(4条)、箱詰・製品搬送設備一式、
建屋

・強い農業づくり交付金を活用した事業における成果目標

・なし・トマト選果施設利用率 1

00%

・品質・付加価値の向上

5-3-2 支援措置によらない独自の取組み

略

② 企業誘致・立地優遇制度の制定

「企業の誘致及び立地を促進する条例」を平成18年9月に制定し、那須烏山市へ工場等を新設する場合や、市内の工場等が増設・新設する場合に企業立地奨励金を助成することにより、企業誘致を図り、雇用の場を確保すると共に地域活性化を促進する。

略

④ まちづくり研究会活動

略

② 企業誘致・立地優遇制度の制定

「企業の誘致及び立地を促進する条例」を平成18年9月に制定し、那須烏山市へ工場等を新設される場合や、市内の工場等が増設・新設する場合に企業立地奨励金を助成することにより、企業誘致を図り、雇用の場を確保すると共に地域活性化を促進する。

略

④ まちづくり研究会活動

<p>栃木県内にある5大学と市や商工会が連携し、那須烏山市の活性化に取り組む「まちづくり研究会」を平成18年7月に発足した。</p> <p>活動内容としては、平成19年10月15日には、「残したい風景—からすやまフォトコンテスト」を開催し、市の魅力を再発見した。</p> <p>略</p> <p>6. ～8. 略</p>	<p>栃木県内にある5大学と市や商工会が連携し、那須烏山市の活性化に取り組む「まちづくり研究会」を平成18年7月に発足した。</p> <p>活動内容としては、本年10月15日には、「残したい風景—からすやまフォトコンテスト」を開催し、市の魅力を再発見した。</p> <p>略</p> <p>6. ～8. 略</p>
--	---